

レクチャーコンサート「日本人が洋楽に出会ったころ」

鈴木, 晶

(出版者 / Publisher)

法政大学国際文化学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

異文化 / 異文化

(巻 / Volume)

14

(開始ページ / Start Page)

7

(終了ページ / End Page)

8

(発行年 / Year)

2013-04

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00008669>

レクチャーコンサート 「日本人が洋楽に出会ったころ」

報告者：鈴木 晶

<イベント開催の趣旨、内容紹介>

1880年（明治13年）文部省内に「音楽取調掛」が創設され、日本国内で“西洋音楽”の教育が組織的に始められた。当初の目的は、小、中学校の音楽教育のための教材作成と教員養成であった。1887年（明治20年）、「音楽取調掛」は「東京音楽学校」となり、創設目的の継続発展と同時に“優等の芸術家を養成”するための音楽専門学校となる。しかしその後、日清戦争の緊縮財政のあおりを受け、存続の是非が問われ、なんとか廃止は免れたものの、高等師範学校の附属校に格下げという憂き目を見る。しかし日清戦争の勝利を背景に状況が好転し、1899年（明治22年）に再び「東京音楽学校」として独立し、本格的な音楽専門教育がスタートする。そして1900年（明治23年）に「作曲部」が設置され、そこから日本人の手による西洋音楽創作の歴史が始まったと言えよう。

まもなく滝廉太郎、山田耕筰、成田為三など次々と作曲家が誕生し、そのメロディーは今日でも親しまれているが、そのほとんどは歌の曲で、器楽曲は演奏される機会はあまりない。今回の講座では、彼らの知られざるピアノ曲を聴きながら、当時日本人が洋楽に出会い、どのように受け入れ、西洋文化を吸収しつつ日本人の洋楽を確立していったかを追っていく。また東京音楽学校で指導するために来日していた外国人教師が、日本文化の影響を受けて作曲したピアノ曲もあわせて紹介する。

<演奏曲目>

滝廉太郎 メヌエット、憾、
山田耕筰 夜の詩曲、忘れ難きモスコウの夜、
成田為三 浜辺の歌変奏曲、
橋本國彦 雨の道、
ディットリヒ 桜、祭ばやし、姫松、花くらべ

他

<講師紹介>

パリ国立高等音楽院ピアノ科、同大学院修了。プラハ国際音楽コンクール室内楽二重奏部門第一位など受賞歴多数。著書に『堀江真理子のペダルテクニック』など。2007年にCD『啓かれた日本のピアノ』をリリース。日大芸術学部、同大学院講師。

<企画立案者・鈴木晶による報告>

BT0300に設置されているグランドピアノはかなり高位機種であるが、ふだん使用されていないため、ヤマハの調律師が2日間にわたって調整する必要があった。また音響効果を考えて、調律師から、ピアノの下に厚いベニヤ板を敷くように指示された。数年前、やはり鈴木晶ゼミで企画した「アイルランドの文化と音楽」で、アイリッシュ・ダンス（タップダンス）の実演のために購入したベニヤ板がそのまま保存されていて、それを使用することができた。

当日は、外部の聴衆が多く、学内生が少なかったのが残念であった。

-
- 日時：2012年5月25日18:00～19:30
 - 場所：BT0300（マルチメディアスタジオ）
 - 講師：堀江真理子（ピアニスト）
-